

委員会先進地視察報告書総括表

1 視 察 日	令和 7 年 10 月 7 日 ~ 10 月 9 日	
2 視察地・項目	① 岐阜県 多治見 市	小中学校におけるICT機器の活用事例及び多治見市GIGAスクール推進プロジェクトについて
	② 岐阜県 岐阜 市	ぎふMIRAI's (ぎふみらい) について
	③ 愛知県 刈谷 市	「小中学校体育館空調設備整備事業」について
3 参 加 者	1. 竹森 学 委員長	7. 松尾 祥秀 委員
	2. 久保 和幸 副委員長	8. 田中 秀和 委員
	3. 高濱 広司 委員	9. 内田 博康 学校施設整備室長
	4. 中崎 秀紀 委員	10. 入口 瞬 学校教育課職員
	5. 永山 真美 委員	11. 益田 莉穂 議会事務局書記
	6. 古閑森 秀幸 委員	
4 視 察 経 費	783,090 円 ※ (11) 人分	

委員会先進地視察報告書

報告者 久保 和幸

1 視 察 日	令和 7年 10月 7日	
2 視 察 地	岐阜県多治見市	
3 参 加 者	厚生文教委員会	
	1. 竹森 学 委員長	7. 松尾 祥秀 委員
	2. 久保 和幸 副委員長	8. 田中 秀和 委員
	3. 高濱 広司 委員	9. 内田 博康 室長
	4. 中崎 秀紀 委員	10. 入口 瞬 職員
	5. 永山 真美 委員	11. 益田 莉穂 書記
	6. 古閑森 秀幸 委員	12.
4 視 察 項 目	小中学校における ICT 機器の活用事例及び多治見市 GIGA スクール推進プロジェクトについて	
5 視察先選定理由・目的	学校教育における ICT を活用した先進地事例を視察するもの	
6 視 察 内 容	<p>○岐阜県多治見市 人口 107,278 人、面積 91.25 km²、財政規模（歳出総額）449.9 億円 ※古くから美濃焼など陶磁器の産地として知られ、モザイクタイルの生産は日本一、名古屋駅から約 30 分で大規模な住宅団地が建設され、ベッドタウンとしても発展</p> <p>1 教育員会事務局の構成 教育研究所という部署（GIGA スクール構想以前からの部署）が ICT 教育を所管しており、ICT 教育推進員（教員 0B）4 名が在籍している。 Q ICT 推進員採用のポイントは、精通者か研修など行ったのか。 A 3 名のから 4 名に増員した。当初の 3 名のうち 2 名は精通者で特に研修は行っていない。アプリの操作能力よりもいかに上手く教えることができるかを重視した。</p> <p>2 多治見市の ICT 環境 児童生徒、教職員とも搭載している主なアプリはほぼ同じである。 教職員には、校務用アプリとして、学籍簿、成績などの管理や 8 校中 6 校はテストの自動採点、成績データの分析ができるアプリ（百問繚乱）を搭載している。教室には、電子黒板、AppleTVなどを設置、授業を行っている。通信速度対応のため WiFi 環境整備を令和 8 年度までに約 2 億円で行う。 Q 自動採点のアプリ（百問繚乱）は各校が独自に導入したのか。 A 各校で独自に導入して良かったものは他校でも導入する。百問繚乱については、大規模校では効果があるが、小規模項ではどうか疑問である。</p>	

3 ICTに係る予算

ICT 整備事業費（タブレット更新費用）

小学校：416,117 千円 中学校：250,020 千円 計：666,137 千円

ICT 管理運営費（委託費、ライセンス使用料、備品購入・維持修繕費）

小学校：41,956 千円 中学校：26,282 千円 計：68,238 千円

4 教員の負担感とサポート体制

ICT 教育推進員 4 名は学校で勤務しており、サポートしている。

校務の DX 化を図り、ICT 導入で個人的なテストの採点などの業務量が軽減され、育児休暇なども取得しやすくなり働き方改革に繋がっている。

また、学校部活動の地域移行も 2020 年度に完了している。

Q 授業の企画や資料作成は誰が行うのか（クラスごとか学年ごとか）

A 教育の共有フォルダで共有しているが、教員個々で作成しているのが現状である。

5 保護者の理解協力

使い方の指導、ネット接続アプリ（ロイロノート）は小学生は 9 時、中学生は 10 時までには制限している。家庭で iPad の充電はしてくるように指導しているが、忘れてくる子もいる。なお、iPad を持ち帰ることで教科書は学校に置いている。

6 保護者の理解協力

オンラインでの授業の実施で、家庭、相談室、校内適応支援を行っている。ロイロノートを活用して課題の共有、提出、連絡を行う。

心の天気：子どもが心情を「晴れ、くもり、雨、雷」で表現して先生と共有する機能

7 デジタルシチズンシップ教育

- ・R6 年度 ICT 教育推進員、生徒指導部会で検討、ハンドブック策定
- ・R7 年 4 月 全小中学校でハンドブックを活用し校内研修を実施
- ・R7 年度 デジタルシチズンシップ教育推進校を指定、代表教員が GIGA スクール活用推進プロジェクト会議へ参加、推進校がデジタルシチズンシップ教育、ICT の効果的な活用に関わる授業公開を行う。

8 成果と課題

iPad を教員、児童生徒とも抵抗なく活用できるようになった。教員が iPad を使う場面と使わない場面を意識的に分けることができている。

個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実に向けた活用方法の研究が必要、また、端末、アプリの費用、5 年更新で約 10 億円の確保

Q 子どもたちの学力は上がっているのか。

A あまり変わっていない。学力テストの結果、小学生は低いが、中学生は平均以上、ICT 教育の効果かは判断できない。

	<p>Q 県内での統一性はないのか。</p> <p>A 県は高校が主体であり、先進事例の紹介とかはあったが、どのようにやるかの指導・指示はない。本市ではICT教育推進員がアドバイスしているが、やり方については各市で差がある。</p> <p>Q ALTの導入について</p> <p>A ALTは個人マンツーマン指導ができ英語教育に効果がある。外国籍の子どもたちも就学している。AIとの英会話も検討している。</p> <p>Q ICT教育の導入によって探究学習に繋がっているのか</p> <p>A 子どもたちの意識もあるがつながりの手段として活用している状況、タブレットで調べるスピードは早くなっているが、文章問題や読解力ができていないのか深く考える力が弱い。主体的に学べる環境が作れてない。取りまとめ時間を縮減することで実験などの時間は取れている。</p>
7 委員会所見	<p>ICT教育の導入には、機器の導入や将来の機器更新、年間の管理運営費など導入には多大な経費を必要としますが、教育環境の効率化が進められることによって、テストの自動採点や成績の分析など教員の事務量の軽減が図られ、働き方改革にも大いに寄与します。</p> <p>ICT教育は、子どもたちにとって興味あるデジタルへの入口です。興味から物事への探究に繋がるような多様な手段として、主体的な力を子どもたちに付けさせる必要性を今回の先進地事例視察で理解できました。</p> <p>デジタルシチズンシップ教育などを通して、子どもたちが将来、デジタルのより良い使い手になれるようICT教育を進めなければならないと感じました。</p>

委員会先進地視察報告書

報告者 永山 真美

1 視 察 日	令和 7年 10月 8日	
2 視 察 地	岐阜県岐阜市	
3 参 加 者	厚生文教委員会	
	1. 竹森 学 委員長	7. 松尾 祥秀 委員
	2. 久保 和幸 副委員長	8. 田中 秀和 委員
	3. 高濱 広司 委員	9. 内田 博康 室長
	4. 中崎 秀紀 委員	10. 入口 瞬 職員
	5. 永山 真美 委員	11. 益田 莉穂 書記
	6. 古閑森 秀幸 委員	12.
4 視 察 項 目	ぎふMIRAI's (ぎふみらい) について	
5 視察先選定理由・目的	<p>岐阜市は、「リアルを通して「生きる」をつくる」をコンセプトとして、岐阜市の「人・もの・こと」から、岐阜市について深く知り、自ら関わることで、自分の生き方をつくり出すことを目的とした「ふるさと教育」に取り組んでいる。ITの利活用と地域に根差す方々からの学びに重点をおく取り組みは厚労省も注目する先進事例であることから、視察を行い、今後のふるさと教育のあり方について考察する。</p>	
6 視 察 内 容	<p>1. 岐阜市 児童・生徒数（幼・保・小・中）：約 29,000 人 教職員数：約 2,100 人 小学校：45 校 中学校：22 校 義務教育学校：1 校 特別支援学校（私立）：1 校</p> <p>2. きっかけ いじめによる中学生の自死をうけ、「真に大事なことは何か」を議論し、岐阜市教育大綱の基本方針に「生命の尊厳を理解する」ことを明記。 第4期岐阜市教育振興基本計画のテーマを「希望あふれる未来を自ら拓く力を育む教育」とし、基本目標の4番の柱に「このまちと人から「生きる」を学び、社会参画する力を培う」を立て、その根幹をなす施策として「ぎふMIRAI's」がある。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center; font-size: small;">3. ぎふMIRAI'sで目指す子どもの姿</p> <p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">岐阜市の資源(人・もの・こと)をベースとして、生きる力を育む</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; width: 15%;">岐阜市への 深い理解</div> <div style="font-size: 24px; margin: 0 5px;">×</div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; width: 15%;">モデルとなる 生き方</div> <div style="font-size: 24px; margin: 0 5px;">×</div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; width: 15%;">岐阜市の 未来構想</div> <div style="font-size: 24px; margin: 0 5px;">=</div> <div style="background-color: #007bff; color: white; border-radius: 10px; padding: 5px; text-align: center; width: 15%;">これからの 自分の生き方</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin: 10px 0;"> <div style="text-align: center; width: 20%;"> <p style="font-size: small;">愛着と誇り</p> </div> <div style="text-align: center; width: 20%;"> <p style="font-size: small;">あこがれ</p> </div> <div style="text-align: center; width: 20%;"> <p style="font-size: small;">当事者意識 社会参画</p> </div> <div style="text-align: center; width: 20%;"> <p style="font-size: small;">将来の夢や目標</p> </div> </div> <p style="font-size: x-small; margin-top: 10px;">自分の原点(足元)が確かなものになり、将来どこで暮らしても、 岐阜市を心のよりどころとして、グローバルな視野で活躍できる子を育てる</p> </div>	

3. 教育長の思いと教育委員会が掲げる VISION (=基本計画)

岐阜市が「大好き」でも、知識は観光客レベル。ふるさとを「知って」いるか?「語れる」か?⇒「人」「まち」「暮らし」を語れる子どもに。調べてわかることだけではダメ。「理想のまち」を作るためには何が必要か?を考える。

*VISIONは大事・・・ぶれない。行政が掲げて、学校がどう受け止めるか。

①正しい知識を得る。理解する⇒②その土地でがんばっている人に出会う⇒③参画する「だから、私は〇〇したい」を語れるようになる…発想の転換ができる教員を育てたい!

*大村市の基本計画も、岐阜市とリンクする部分がありますよ。(添付資料参照)

4. ぎふMIRAI's

M・・・My Dreams (将来の夢や目標)

I・・・Identity (アイデンティティ)

R・・・Regional education (地域学習)

A・・・Arts (芸術・文化・生活・経済・法律・政治・倫理等)

I・・・ICT, DX (情報通信技術, デジタルトランスフォーメーション)

's・・・SDGs /一人ひとりの未来、一人に複数ある未来、私の未来

◆5つの施策

①「ぎふMIRAI'sチャンネル」の実施岐阜市のすべての子に出会わせたい人を講師に招き、全小・中学校をオンラインでつないだ一斉授業

ぎふMIRAI's チャンネル



①「ぎふMIRAI'sチャンネル」の実施

【小・低学年チャンネル】

講師名 須山知香氏(岐阜大学教育学部教授)	JAおんさい広場鷺山
実施日 7月10日(木)	10月23日(木)
【自然】 ・岐阜市の自然 ・身近に見られる植物と見分け方	【自然】 ・岐阜市の「食」 ・農家の営みと店の工夫

【小・高学年チャンネル】

講師名 高橋方紀氏(岐阜市役所文化財保護課 課長)	伊藤知子氏(十八楼)
実施日 9月30日(火)	12月18日(木)
【歴史】 ・岐阜の歴史をPRする取組 ・発掘調査から分かった岐阜城と織田信長	【産業】 ・旅館の女将としての生き方 ・川原町を中心とした岐阜の観光産業

【中学校チャンネル】

講師名 村瀬功氏(村瀬煙火)	水野琢朗氏(柳ヶ瀬商店街振興組合連合会理事長)
実施日 6月27日(金)	11月21日(金)
【伝統文化】【産業】 ・花火職人としての生き方 ・岐阜の花火にかける思い	【くらし】【産業】 ・まちづくりにかける思い ・柳ヶ瀬商店街の再興を目指す取組

②「ぎふMIRAI'sポータルサイト」の活用岐阜市についての情報の閲覧や学びのアウトプットの場としてタブレット端末を効果的に活用

③岐阜市について直接的・体験的に学ぶ機会の創出現地に出向いたり、市内で活躍する人物と交流したりすることで、岐阜市について深く学び、人の生き方に触れる。

- ・ぎふMIRAI'sフィールドトリップ
- ・出前講座

④「ぎふMIRAI's サポーターズ」の構築岐阜市の学校教育を応援して下さる人材バンクを構築。

- ・ぎふMIRAI's 人材リスト ←MIRAI's サポーターズ（一般公募）
- ・各校の学校ボランティア

⑤中学校区におけるカリキュラムマネジメント小中一貫の視点から、9年間のカリキュラムを、ぎふMIRAI's で身に付ける資質・能力（知る・関わる・拓く）で整理。

5. 事前質問への回答

◎予算について・・・約2,000万円（人とモノが関わる場所にお金がかかる）

報償費⇒MIRAI's チャンネルや出前講座の謝礼

委託料⇒チャンネルやサイトの編集、運営、維持管理など

使用料及び賃借料⇒フィールドトリップバス借り上げ料（財政支援）

◎年間計画や企画・立案、動画の作成について

- ・年間計画 前年度に教育委員会内で決定
- ・企画、立案 初年度は教育委員会 本年度は業者と
- ・撮影、編集 初年度は教育委員会 昨年度から業者

◎教員の負担感について

よく聞かれる。サポート体制をとっている。授業の作り方、人材リストがほしい、探求の仕方、他の学校の情報がほしいなどの相談がある。一番多いのは、人材リストに関すること（講師を紹介してほしい）。好事例を紹介するなど、各学校の取り組みも支援している。事業継続の中で、相談が増えてきた。学校ではないので、相談しやすさもあるのでは。基本計画に掲げているので説明しやすいし、異動してきた教員の受け入れもスムーズ。

◎MIRAI's サポーターズについて ←出前講座などの講師

140項目500人ほどが登録。学校に関わりたい、貢献したいと考えている人は多い。その気持ちを大事にしている。リストは教育委員会が管理している。学校からの問い合わせも多い。利用率は高い。

◎市民や保護者の認知度について

認知度は低い。だいたい、大人は学校で何が行われているか、知らない。教育委員会が連絡用などで元々もっていたポータルサイトにリンクづけし、保護者にも情報提供を行うようにした。今年度はサイトを利用して、保護者にも視聴の案内を行い、視聴回数が増えた。公開授業の実施や子どもたちが「思わず家で話したくなる内容」をテーマに取り組んだことで、少しずつ知られるようになってきた。

◎自分が住んでいる地域の特色を学ぶ機会の有無について

これは真骨頂。どの学校も地域の学習を行っている。岐阜市教育委員会が出合わせたい「人」知ってほしい「こと」いってほしい「もの」などをチャンネルで紹介。

◎課題について

ぎふMIRAI 'sの質の向上・充実／周知の不足／人材リストの一層の活用／探究の過程の質の向上／地域教材の活用／必然性、連続性のある探究／教師側の質の向上

6. 質疑応答

Q. 一斉授業だと、休日等に行く事が集中しそうだがトラブルはないか？

A. トラブルの報告はない。行ってほしいので、一斉授業で取り上げている。「行きたくなる」「話したくなる」がテーマなので、行ってもらう、家族に話してもらった方がよい。行くこと・話すこと＝復習効果

Q. 岐阜県全域を教材として取り上げないのか？

A. 岐阜市の取り組みなので、岐阜市のみ。市のことを深く理解することが先だと思う。

Q. 一斉授業（ぎふMIRAI' sチャンネル）の年間授業数は？

A. 1～3年・4～6年・中学生を対象として各クラス2回／年、計6回。総合の時間を活用して配信しているが、学校側の日程調整が大変なので、今年度は一斉配信を取りやめた。

Q. 人材確保、後継者づくりはどうしているのか？

A. これまでの担当は、指導主事一人だったが、今年度から「副」をつけ、二人体制にした。一人が異動しても継続可能にするため。知識や経験の継承も可能に。

Q. 地域人材の活用では、部活動の地域移行なども進んでいるのか。地域の協力はどれくらいか？

A. 部活動の地域移行については担当外なのでわからない。ぎふMIRAI' sサポーターズに関して言えば、学校と関わりたい人は多い。出前講座の講師なども最初は「話し方がわからない」という人もいるが、回数を重ねることでみんな上手になっていく。その人に合わせて、話しやすいところや取り組みやすいところから始めてもらうなど、企画を工夫している。

Q. 学校でのとりくみでは、カリキュラムを作ることがゴールになってしまわないか？

A. カリキュラムを作る前の支援に力点を置いている。先生の「やらされている」感をなくし、「自分で授業を作っている」感覚を大切にするようにしている。一単元ではなく、一年間を通して子どもたちがどう成長したか、ど

	<p>んな子になっているか、なってほしいか、を大切にしてほしいという話をしている。</p> <p>Q. 財源は？</p> <p>A. デジタル田園都市国家構想交付金の活用でスタート。今は地方創生臨時交付金。ふるさと納税も一部入っている。MIRAI' s チャンネルは各学校で作れるようになれば、教育委員会で作成する必要はなくなるが、フィールドトリップ（バス支援）や出前講座（人材支援）の財政支援は必要。</p> <p>Q. 教育長が変わったら、方向性はどうなる？</p> <p>A. 教育長の思いで予算がついているところもあるので、正直、どうなるかわからない。地域の方の理解と協力、地域力ををつけることが事業の継続につながると思う。すでに取り組み始めた学校もある。</p>
7 委員会所見	<p>「事業内容の説明より、熱意を伝えた方が良いと思って」と、熱意あふれる説明をしていただいた。教育長の思いではじまった事業ということ、基本計画に目的と施策が明記されていることで、教育委員会の方針がぶれず、現場への説明もしやすかったと話しておられた。基本計画には、「ふるさとを愛する心を育む」という文言は入っていないが、人格形成や人生観の構築の土台に、ふるさとを愛する心や故郷に誇りをもつこと、ふるさとについての深い学びがあるということに気づかされた。「現地に行く」「人と出会う」というアナログとアプリの活用や YouTube チャンネルの配信といったデジタルの両方の良さをミックスした取り組みは、今後、広がっていくものと思う。文科省も注目する取り組みだが、海外でも紹介されているという話であった。このような事例の場合、スキルや熱意をもった「人」への依存が高くなりがちだが、そうならないための対策にも工夫がされていた。大村市も、地域の特色を生かした授業が実施されており、地域に愛着をもつための取り組みはある。が、「大村純忠」や「石井筆子」など大村の歴史や偉人、大村の暮らしを「語れる」子どもたちはどれくらいいるだろうか。タブレットの配布で、子どもたちの検索能力は向上している。ネットに溢れる情報にまどわされず、自分軸をしっかり持って生きる力を培う教育のあり方について考えさせられる視察であった。</p>

委員会先進地視察報告書

報告者 中崎 秀紀

1 視 察 日	令和 7年 10月 9日	
2 視 察 地	愛知県刈谷市	
3 参 加 者	厚生文教委員会	
	1. 竹森 学 委員長	7. 松尾 祥秀 委員
	2. 久保 和幸 副委員長	8. 田中 秀和 委員
	3. 高濱 広司 委員	9. 内田 博康 室長
	4. 中崎 秀紀 委員	10. 入口 瞬 職員
	5. 永山 真美 委員	11. 益田 莉穂 書記
	6. 古閑森 秀幸 委員	12.
4 視 察 項 目	「小中学校体育館空調設備整備事業」 について	
5 視察先選定理由・目的	令和7年6月定例会で小中学校体育館への空調設備整備の方向性が示された。今後の整備にあたり、先行自治体を調査する。	
6 視 察 内 容	<p>市勢の概要</p> <p>(1) 市政施行 1950年4月1日</p> <p>(2) 面積 50.39 m²</p> <p>(3) 人口 153082人</p> <p>(4) 世帯数 70643世帯</p> <p>1 事業目的</p> <p>児童生徒の熱中症予防等の教育環境の向上及び避難所機能の強化を図るため、小学校15校・中学校6校の体育館及び武道場等に空調設備を設置し体育の事業や部活動、学校行事での利用の他、地域行事やスポーツ開放等に幅広く利用する事を目的としている。</p> <p>2 設備概要</p> <p>①動力源 都市ガス、プロパンガス併用のGHP(ガスヒートポンプエアコン)方式を採用</p> <p>②設置場所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室内機は、アリーナの床面積が減少しないようキャットウォーク下に吊り下げて設置 ・室内機の前に管内の空気の循環させるための送風機を設置 ・室外機とプロパンガスタンクは体育館・武道館横に設置 <p>③整備状況</p> <p>令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校14校の体育館に設置 ・中学校実施設計業務委託 	

令和5年度

- ・小学校1校の体育館に改築に合わせ設置
 - ・中学校6校の体育館・武道場・多目的ホールに設置
- ④空調設備運用について 資料P5
- ・気象条件や館内の状況、児童生徒の体調に配慮して使用
 - ・稼働期間は夏季6月から9月・冬季12月から3月
 - ・設定温度は夏季28℃(25℃から28℃)・冬季19℃(18℃から20℃)
 - ・送風機は稼働期間外も使用可能
 - ・学校の授業等では、エアコン操作は教員が行う但し3時間で自動オフの設定
 - ・部活動では教職員の管理のもと必要と判断されれば使用できる。
 - ・学校以外の団体は、スポーツ開放は有料、地域開放では無料となっている。
 - ・エアコン操作は代表者・責任者が体育館に設置されたダイヤル式ボックスから受領し実施

3 質問事項

質問事項7項目への回答は、添付資料小中学校体育館空調整備事業を参照

①整備の経緯は？

・回答のとおりであるが市長の学校体育館への設置の強い要望が大きかったと考える。

②財源確保は？

・総事業費14億1500万で、国庫補助金も活用したが8.8億の起債で賄っている。

・不交付団体であることから補助金も低い算定となった。

・ランニングコストは1校当たり約220万円/年

③GHP方式採用の経緯

・電気、都市ガス、プロパンガス、電気と都市ガス、電気とプロパンガスなど様々検討したが、電気が寸断したときでも電源自立型室外機で空調以外の非常電源となることなど総合的なメリットが評価され併用方式のGHPとなった。

・都市ガス2機、プロパンガス1機で運用されていてプロパンガスについてはガス組合と協定を結んでいる。都市ガス寸断時はプロパンガスのみに切替を行う。

④入札方式・市内業者の参加状況

一般競争入札で結果的にすべて市内業者となった

⑤反応や利用実績

学校行事が夏季・冬季共に行いやすくなった。部活動や地域行事が行いやすくなったなど好評を得ている。

⑥アドバイスは？

プロパンガスはガス寸断時など災害時に力を発揮するが切替に人手がいる。操作も含めて容易であることが重要であることから操作が簡単なものを採用することを勧める。

	<p>⑦避難所備品の設置状況は 添付備品リストのとおり学校に備えている。</p> <p>4 現地視察 刈谷市立住吉小学校に現地視察を行い授業の様子、機器の取り扱い、空調の効き具合など確認を行った。体育館内は屋外と比べて涼しく運動しやすい環境となっていた。送風機の威力があり真ん中であっても涼しさを感じることができた。</p>
7 委員会所見	<p>刈谷市では市長の小中学校体育館等の空調設備設置に強い意向があり短期間での政策実現となった。昨今の異常気象で特に夏季の高温による体育館での授業環境が過酷で、屋外での授業も困難であることから体育館への空調設備の設置を進めることになった。自治体の児童生徒の教育環境への関心と改善に向けた取り組みの姿勢に感心させられた。</p> <p>整備するにあたり動力源について電気・ガス等十分な検討が必要であるが、刈谷市の選択した都市ガスと・プロパンガスのハイブリットのメリットや運用状況を確認できた。担当者は操作方法が簡単であること、災害時のプロパンガスへの切替が容易であるものを薦めるとのことであった。今回の視察で改めて体育館等への空調設備の必要性和設置後の学校教育の充実や部活及び地域活動の活性化、避難所機能の向上など確認することができた。本市では今後整備が進められるが大村市学校施設長寿命化計画との調整や財源確保、機器の選定や整備後の運用方針、ランニングコストの確保など課題が山積している。</p> <p>教育環境の整備と共に長期的な視点、活用策など幅広く多角的な視点を持ち、本視察を参考の一つとして良い事業となるよう議会として取り組んでいきたい。</p>